

合格者の声

受検のご参考に、これまで合格した方の受検体験談を掲載しました。

※掲載しているものは、あくまでその方個人の感想です。全ての受検者、合格者にあてはまるものではありません。

神奈川県・男性

フランチャイズで働いていた時に、本部での会議で、新たにハウスクリーニング技能士という資格ができたことを知りました。特に勧められたわけではありませんが、興味があったので、協会ホームページ等を調べて受検しました。

試験が始まって最初の年だったので、今以上に情報がありませんでしたが、学科は、自分の会社で使っていたマニュアルや、資料を読み返して、一通り基本を勉強し直しました。

実技は、公開されている試験問題集をもとに、実際に寸法を測って作業場所の大きさを確認したり、時間を計って作業したりすることで、できるだけ実際の試験の様子をイメージするようにしました。普段仕事でやっていないフローリング補修も、自分で補修キットを買って、木材にキズを付けて練習しました。

試験当日は、緊張の中、レンジフードの汚れ落としでハプニングがあって焦りましたが、ここで諦めたら全て終わりだと思い、気を取り直して頑張って、なんとか1回で合格することができました。

実際に受検してみて、フローリング補修以外は、普段やっている仕事でできる範囲の課題だと思います。ただ、それを試験会場の雰囲気の中で、どれだけできるかがポイントになるような気がします。

そのためには、練習量が大切で、イメージトレーニングを重ねたほうがいいのかと思います。あくまで試験なので、どれだけ現場ができていても、練習しないで合格するのは難しいのではないのでしょうか。

また、国家資格の試験だという緊張感を持つことは大切ですが、試験中に何かハプニングがあると、焦って、もう駄目かもしれないと思ってしまいがちですが、どこがどう減点になるかは分からないので、なんとかなると思って、最後まであきらめずに頑張りたいと思います。

資格を取ってからは、ハウスクリーニング技能士であることを名刺に入れてアピールするようになりましたが、お客様との話題作りになると同時に、会社内でも、一目置かれるようになりました。

国家資格ということに興味を持たれるお客様が多く、社内の人からもお客様に宣伝していただけたおかげで、国家資格を持った方をお願いしたいと、お客様から指名につながったこともありました。

フランチャイズにいた時は、ブランドがあるので、資格なんてという意見も耳にしましたが、フランチャイズを辞めてしまうと、ブランドや社内資格は通用しません。

独立した今こそ、役に立つ資格だと思っています。

千葉県・男性

ハウスクリーニング技能検定試験については、加盟しているフランチャイズを通して知りました。

はっきりした動機があったわけではないですが、仕事で必要な時が来てから取ったのでは、時間がかかってしまうので、今のうちに取っておこうと思って受検しました。

合格率を見ると、よほど真剣に取り組まないと合格できないだろうし、1回で合格するのは難しいかと思い、初年度は、半分腕試しのつもりで受検しました。

学科は、事前に過去問をしっかりと勉強して、合格することができました。

実技は、フランチャイズで実施していた事前講習に参加して、一応流れはつかんでいましたが、緊張しないようにと思っても、やはり当日作業中に何かハプニングがあると、イメージと違ってきて、やはり焦ってしまい、思うようにできなかつたところもあり、結果は不合格でした。

結果通知を受け取って、不合格となった課題については、その理由がよく分かりませんでした。あまり結果を気にしすぎると嫌になってしまうので、気持ちを改めて、次年度に向けて、イメージトレーニングを繰り返すようにしました。仕事の現場でも、例えばレンジフード清掃の作業を試験に見立てて、作業時間を計ってやってみたりしました。

おかげで、試験当日は、スムーズに作業をすることができ、2回目の受検で合格することができました。

私の場合は、元々あまり1回で合格しようと思っていなかったもので、1回目の結果を見ても、深く考えすぎずに、気長に考えて、気持ちを改めて再度トライできたことがよかったのかと思います。

合格してみると、やはり国家資格を持っているということで、自分の意識も変わりました。また、お客様に対しても、国家資格ということで、信用していただけています。

まだまだハウスクリーニング技能士の資格を持っている方は少ないので、これから受検する方も、資格を取得することで、自分のアピール材料にはなるのではないのでしょうか。

静岡県・男性

私がハウスクリーニング技能検定を受検した動機は、技術的なことよりも、ハウスクリーニングにおいて、国が指定した、ハウスクリーニングに必要な内容、専門知識がどれくらいあるのか知れたかったということが一つ。もう一つは、自身が社内で講師を務める立場にあり、また社員の指導という意味でも、国が指定した内容に沿って、きちんとしたことを教えて人材を育成していきたくったということです。

受検するにあたっては、建築物管理訓練センターでの準備講習を受講し、そこで教えていただいた内容に沿って、自分なりに準備を進めていきました。

学科については、準備講習で使ったテキスト使い、要点を確認しながら、過去問を解いて

いくようにしました。

実技については、準備講習で教わった内容をもとに、会場の様子や道具の位置などを再現して、道具をどこに置いて、どのように動くかといったことを自分なりに決めて、それを実践の中で出来るように意識づけるように練習を繰り返しました。実際の試験は、汚れを落とすことがメインではありますが、自分は、準備講習での指導をもとに、立ち方、座り方、ウエスの持ち方や使い方といった所作も気を付けるようにしました。

こうして、入念に準備した結果、1回で合格することができました。

現在、名刺にハウスクリーニング技能士と入れているので、国家資格ということで、お客様との話題作り、話のきっかけにはなっていますし、取引先の上役の人にも、自分が現場のことが分かる人間だということが一目で伝わるので、話がしやすくなる利点を感じています。

埼玉県・男性

現在、フランチャイズに加盟して、在宅のハウスクリーニングをメインに仕事をしています。

ハウスクリーニング技能検定試験については、フランチャイズのイベントで知りました。

フランチャイズのブランドだけでも十分知名度はありますが、複数の店舗がある中で差別化が必要だと思いましたし、今後フランチャイズをやめた場合、お客様に信用していただくツールの一つにしたいと考えて受検しました。

受検するにあたって、学科問題は、ホームページに掲載されている過去問を徹底的に解きました。実技は、普段仕事でやっていることなので、試験についての僅かな情報を頼りに、普段通りやるよう心掛けました。

結果は、学科合格、実技不合格でした。実技は、ステンレスの汚れ落としが不合格だった原因がよくわかりませんでした。あくまで試験のための実技であり、数少ない情報をいかに集められるかが合否の分かれ目と割り切って、次の年に再受検し、無事合格することができました。

合格してから、まだフランチャイズ内でも資格取得者が少なかったため、本部にアピールして、当店のホームページに専用バナーを作成してもらいました。また、名刺にハウスクリーニング技能士と入れてアピールするようにしています。

残念ながらお客様でハウスクリーニング技能士を知っている方はいませんが、国家資格ということで信用はしてもらえています。お客様からの信用や、お客様へのご提案といった場面では、効果を発揮する資格だと思えますし、間違いなく強みになると思えますので、高単価の現場へと利用していただけるよう、これから受検する方々にも、何とか合格していただきたいと思えます。